

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
設置者	ガッコウホウジン ナガハラガクエン 学校法人 永原学園								
大学の名称	ニシキユウシュウダイガクダイガクイン 西九州大学大学院（Graduate School of Nishikyushu University）								
大学本部の位置	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9								
大学の目的	大学院は、西九州大学の建学の精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、社会に貢献し、文化の進展と健康・福祉の向上に寄与する人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	栄養学専攻は、データに基づいたエビデンスにより構築される知識と技術を理解し、多様な発展を遂げる社会において複雑化・高度化する栄養に関する課題を解決してこれからの社会を支える高度専門職業人としての現場リーダーを養成することを目的としている。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 生活支援科学研究科 健康栄養学専攻修士課程 14条特例の実施
	生活支援科学研究科 〔Graduate School of Human Care Sciences〕 栄養学専攻 〔Division of Nutrition〕 博士後期課程 〔Doctor's Course of Nutrition〕 計	3年	2人	-	6人	博士（栄養学） Doctor of Philosophy in Nutrition	令和4年4月 第1年次	神埼キャンパス 佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	令和4年4月名称変更予定 生活支援科学研究科健康栄養学専攻修士課程→同研究科栄養学専攻博士前期課程 生活支援科学研究科看護学専攻修士課程（5）（令和3年3月認可申請）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	生活支援科学研究科 栄養学専攻博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	16単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	生活支援科学研究科 栄養学専攻（博士後期課程）		8人 (8)	2人 (2)	1人 (1)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	2人 (2)
	生活支援科学研究科 看護学専攻（修士課程）		7人 (7)	3人 (3)	4人 (4)	0人 (0)	14人 (14)	0人 (0)	13人 (13)
計		15人 (15)	5人 (5)	5人 (5)	0人 (0)	25人 (25)	0人 (0)	15人 (15)	
組織	生活支援科学研究科 栄養学専攻（博士前期課程）		10人 (10)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	6人 (6)
	生活支援科学研究科 臨床心理学専攻（修士課程）		5人 (5)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	8人 (8)	0人 (0)	13人 (13)
新設	生活支援科学研究科 リハビリテーション学専攻（修士課程）		8人 (8)	8人 (8)	1人 (1)	0人 (0)	17人 (17)	0人 (0)	6人 (6)
	生活支援科学研究科 子ども学専攻（修士課程）		8人 (8)	4人 (4)	1人 (1)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	14人 (14)
概要	生活支援科学研究科 地域生活支援学専攻（博士前期課程）		6人 (6)	2人 (2)	2人 (2)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	12人 (12)
	生活支援科学研究科 地域生活支援学専攻（博士後期課程）		9人 (9)	0人 (0)	1人 (1)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	4人 (4)
計		46人 (46)	17人 (17)	5人 (5)	0人 (0)	68人 (68)	0人 (0)	55人 (55)	
合計		63人 (63)	23人 (23)	9人 (9)	0人 (0)	95人 (95)	0人 (0)	70人 (70)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体			
	事 務 職 員		52 (52) 人	0 (0) 人	52 (52) 人				
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計		54 (54)	0 (0)	54 (54)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	西九州大学短期大学部（必要面積3,800㎡）と共用			
	校 舎 敷 地	39,878 ㎡	14,833 ㎡	0 ㎡	54,711 ㎡				
	運 動 場 用 地	18,813 ㎡	8,264 ㎡	0 ㎡	27,077 ㎡				
	小 計	58,691 ㎡	23,097 ㎡	0 ㎡	81,788 ㎡				
	そ の 他	63,849 ㎡	4,366 ㎡	0 ㎡	68,215 ㎡				
合 計	122,540 ㎡	27,463 ㎡	0 ㎡	150,003 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	西九州大学短期大学部（必要面積3,900㎡）と共用			
		29,227 ㎡ (29,227 ㎡)	19,392 ㎡ (19,392 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	48,619 ㎡ (48,619 ㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	50 室	69 室	44 室	6 室 (補助職員 2人)	1 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 生活支援科学研究科栄養学専攻 (博士後期課程)		室 数 13 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 (機械・器具、標本は除く)	
	生活支援科学研究科栄養学専攻（博士後期課程）	25,292 [1,339] (25,274 [1,330])	40 [3] (40 [3])	4 [2] (4 [2])	483 (483)	604 (604)	71 (71)		
	計	25,292 [1,339] (25,274 [1,330])	40 [3] (40 [3])	4 [2] (4 [2])	483 (483)	604 (604)	71 (71)		
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				大学全体	
		1,960 ㎡	283 席	204,000 冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
		3,267 ㎡	トレーニングセンター 242㎡	テニスコート 2面	多目的コート 1面	弓道場 89㎡			
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		200千円	200千円	200千円			
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円			
		図書購入費	100千円	100千円	100千円	100千円			
	設備購入費	0千円	12000千円	12000千円	12000千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	810 千円	610 千円	610 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、雑収入等						

大学等の状況	大学の名称	学校法人 永原学園 西九州大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	健康栄養学部 健康栄養学科	4	120	—	480	学士 (健康栄養学)	0.87 0.87	平成 26年度	神埼キャンパス 佐賀県神埼市 神埼町尾崎 4490番地9	
	健康福祉学部 社会福祉学科	4	80	3年次 10	340	学士 (社会福祉学)	0.75 0.62	昭和 49年度		
	スポーツ健康福祉学科	4	50	—	200	学士(スポーツ 健康福祉学)	0.95	平成 26年度		
	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	4	40	—	160	学士 (理学療法学)	0.85 0.85 0.94	平成 19年度		
	作業療法学専攻	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.75	平成 19年度		
	子ども学部 子ども学科	4	80	3年次 10	340	学士 (子ども学)	1.14 1.14	平成 21年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市 神園3丁目	
	心理カウンセリング学科	4	40	—	160	学士 (臨床心理学)	1.15	平成 26年度	18番15号	
	看護学部 看護学科	4	90	—	360	学士(看護学)	0.99 0.99	平成 30年度	小城キャンパス 佐賀県小城市 小城町 176番地27	
	大学院 生活支援科学研究科 健康栄養学専攻 (修士課程)	2	2	—	4	修士 (健康栄養学)	0.50	平成 26年度	神埼キャンパス 佐賀県神埼市	
	地域生活支援学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (生活支援学)	0.50	平成 27年度	神埼町尾崎 4490番地9	
	地域生活支援学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (生活支援学)	1.10	平成 27年度		
	リハビリテーション学専攻 (修士課程)	2	3	—	6	修士(リハビリテ ーション学)	1.50	平成 26年度		
	臨床心理学専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (臨床心理学)	1.30	平成 26年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市	
	子ども学専攻 (修士課程)	2	3	—	6	修士 (子ども学)	0.66	平成 27年度	神園3丁目 18番15号	
	既設大学等の状況	大学の名称	西九州大学短期大学部							
		学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
			年	人	年次人	人		倍		
	既設大学等の状況	地域生活支援学科	2	100	—	200	短期大学士 (地域生活支援学)	0.71	平成 29年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市 神園3丁目 18番15号
		幼児保育学科	2	90	—	180	短期大学士 (保育学)	0.98	昭和 40年度	
	附属施設の概要		該当なし							

教 育 課 程 等 の 概 要															
(生活支援科学研究科栄養学専攻博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	総合分野	食・健康と栄養の総合特講	1前	2			○				8	2	1		オムニバス兼2
専門科目	食品科学分野	食品科学特講	1後		2		○				4		1		オムニバス
	健康科学分野	健康科学特講	1後		2		○				2				オムニバス兼2
	実践栄養学分野	実践栄養学特講	1後		2		○				3	2			オムニバス
研究指導科目	栄養学特別研究Ⅰ	1通	4				○				5	2			
	栄養学特別研究Ⅱ	2通	4				○				5	2			
	栄養学特別研究Ⅲ	3通	4				○				5	2			
合計(7科目)			—	14	6			—			8	2	1		
学位又は称号		博士(栄養学)			学位又は学科の分野				家政関係						
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
「食・健康と栄養の総合特講」、「栄養学特別研究」の2科目14単位を必修とする。その他、「食品科学特講」、「健康科学特講」、「実践栄養学特講」から1科目2単位を履修し、合計16単位を修得すること。かつ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。									1学年の学期区分			2期			
									1学期の授業期間			15週			
									1時限の授業時間			90分			

授 業 科 目 の 概 要			
（生活支援科学研究科 栄養学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	総合 分野 食・健康と栄養の総合特講	<p>（概要） 栄養学関連分野で発表された概ね2年以内の比較的新しい学術論文を含んだ話題を取り上げ、わかりやすく解説する。多くの関連分野の最新の研究を知ることで、栄養学研究の世界的動向を修得する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（安田みどり／1回） 食品機能学分野の研究の話題と動向 （柳田晃良／1回） 食品栄養学分野の研究の話題と動向 （三嶋敏雄／1回） 食品化学分野の研究の話題と動向 （四元博晃／1回） 栄養化分野の研究の話題と動向 （斎木まど香／1回） 食品衛生学分野の研究の話題と動向 （安部恵代／1回） 栄養内科学分野の研究の話題と動向 （久木野憲司／2回） 栄養生理学分野の研究の話題と動向 基礎栄養学分野の研究の話題と動向 （管原正志／1回） 環境生理学分野の研究の話題と動向 （山口裕嗣／1回） 運動生理学分野の研究の話題と動向 （草野洋介／2回） 公衆栄養学分野の研究の話題と動向 応用栄養学分野の研究の話題と動向 （堀田徳子／1回） 栄養教育学分野の研究の話題と動向 （久野一恵／1回） 臨床栄養学分野の研究の話題と動向 （横尾美智代／1回） 公衆衛生学分野の研究の話題と動向</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	食 品 科 学 分 野	<p>(概要) 栄養学専攻博士後期課程の3つの教育研究分野の一つ、食品科学分野の講義である。人々の生活の中で栄養・食生活は、生命を維持し、健康で幸福な生活を送るため欠くことのできない営みである。身体的な健康という点からは、栄養状態を適正に保つために必要な栄養素等を摂取すること、その一方で食生活は社会的、文化的な営みであり、人々の生活の質（QOL）との関わりも深く、これらを支援することが求められている。食品科学の観点から人々の生活を支援するために、基本的な食品の機能性や安全性を理解するとともに、最新の知識や技術についても学ぶ。この講義は、食品科学分野を担当する教員が専門的な立場からオムニバス形式で教授し、学生自身による発表を交えて、ディスカッションも行う。 (オムニバス方式／全15回)</p> <p>(安田みどり／3回) 食品科学の分野における食品機能学の意義と役割について説明し、食品成分中に含まれる機能性成分の分類とそれらの作用機序について教授する。さらに、機能性の食品成分を生かした商品の開発について具体的な事例を紹介する。</p> <p>(柳田晃良／3回) 食品科学の分野における食品栄養学の意義と役割について説明し、食品成分中に含まれる脂質による生態調節機能とその作用機序について教授する。さらに、自身の研究を踏まえた機能性脂質の最新の研究について紹介する。</p> <p>(三嶋敏雄／3回) 食品科学の分野における食品化学の意義と役割を説明し、様々な食品に含まれる食品成分の栄養生理機能や生体調節機能を教授する。食品に関する深い専門知識を持ち、企業や研究機関などで活躍できるように、食品に関する最新の研究・技術を紹介する。</p> <p>(四元博晃／3回) 食品科学の分野における栄養化学の意義と役割について説明し、食品成分中に含まれる機能性成分による生態調節機能とその作用機序について教授する。さらに、エビデンスに基づいた機能性成分の最新の研究について紹介する。</p> <p>(齋木まど香／3回) 食品科学の分野における食品衛生学の意義と役割について説明し、食品に含まれる生物学および化学的リスクについて教授する。さらに、食品の安全性を確保するための概念や手法について紹介する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 実 践 栄 養 学 分 野	実践栄養学特講	<p>(全体の概要) 栄養学専攻博士後期課程の3つの教育研究分野の一つ、実践栄養学分野の講義である。公衆栄養学、栄養教育学、臨床栄養学、公衆衛生学、応用栄養学に関する最新の知見、理論・技術について講義するとともに、それらの分野の原著論文を読む中で、生活の機能や領域、それらを研究、支援の対象とする諸科学のあり方について関心を持ち、自らの研究につなげることをねらいとする。 (オムニバス方式／全15回)</p> <p>(草野洋介／6回) ・栄養と健康、特に公衆栄養学に関する原著英語論文を読む ・論文の要旨について発表、ディスカッションする。 ・論文の要旨をまとめ、考察を加えレポートを作成する。</p> <p>・栄養と健康に関する最新の動向を原著論文を題材に学ぶ。 ・栄養と健康に関する最新の動向を踏まえ、我が国における保健活動、行政活動などでの栄養と健康に関する問題点見出す。 ・栄養と健康に関する知見の活用法について、ディスカッション・発表する。</p> <p>(久野一恵／3回) ・臨床栄養に関して、英語論文を題材に学ぶ。 ・英語論文について発表、ディスカッションする。 ・英語論文について発表、ディスカッションし、レポートを作成する。</p> <p>(横尾美智代／3回) ・感染性胃腸炎の疫学について、これまでの歴史、流行の特徴やシーズンリティ等、最新の動向について学ぶ。 ・予防接種のメカニズム、国内外で発生した接種の問題、途上国での接種状況、人々の予防接種に対する意識等など感染症の防御について最新の動向を学ぶ。 ・ネパールを例にして、途上国の人々の環境に対する意識と健康問題について、IT化促進等により近年大きく変化してきた動向について学ぶ。</p> <p>(堀田徳子／3回) ・行動科学の最新の動向について学ぶ ・行動科学を活用した介入研究の原著論文に関するディスカッション① ・行動科学を活用した介入研究の原著論文に関するディスカッション②</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	栄養学特別研究 I	<p>(特別研究の概要) 食・栄養・健康分野の高度な専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1～3年次を通して研究指導を行う。1年次は、研究テーマの設定および研究の準備全般を進める。</p> <p>(安田みどり) 食品成分が有する様々な生体調節機能を明らかにするため、様々な方法により機能性成分の分析や機能性の評価を行う。ここでは、これまでの関連文献を読んで研究の方向性を決定し、実験を開始する。</p> <p>(柳田晃良) 食品科学の分野における栄養の意義と役割について学び、食品成分に含まれる脂質による代謝調節機能とその作用機序 について学習する。ここでは、これまでの関連文献を読んで研究テーマを決定し、実験を開始する。</p> <p>(安部恵代) 現代における、健康と栄養の関りについて、英語文献をもとに深く学び、問題点を抽出、研究テーマを見出し、研究計画を策定する。</p> <p>(久木野憲司) 栄養生理学の研究テーマについて、背景調査と研究課題の絞り込み、実験手技や調査手法の修得、研究計画の立案を行う。</p> <p>(草野洋介) わが国の健康寿命について俯瞰し、健康寿命と関連する要因、延伸のために必要な意識変容・行動変容について論文を集め、読んだ結果をまとめたうえでフィールドワーク研究計画を立てる。</p> <p>(堀田徳子) 栄養教育手法やその効果について介入研究を行う。これまでの関連文献を読んで研究の方向性を決定し、研究計画を練り、倫理委員会申請や対象確保の準備をし、調査に取りかかる。</p> <p>(久野一恵) これまでの人生や社会経験の中で感じている最近の臨床栄養に関する課題について、研究で何を明らかにしたいのか、PICO (Patients Intervention Comparison Outcome)あるいはPECO (Patients Exposure Comparison Outcome)を用いてリサーチエスションの構造化を行い、実行に必要な過程を洗い出す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	栄養学特別研究Ⅱ	<p>(特別研究の概要) 食・栄養・健康分野の高度な専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1～3年次を通して研究指導を行う。2年次は、テーマに沿って研究を進める。</p> <p>(安田みどり) 食品成分が有する様々な生体調節機能を明らかにするため、様々な方法により機能性成分の分析や機能性の評価を行う。ここでは、学会発表を行い、それをもとに論文の執筆を開始する。</p> <p>(柳田晃良) 食品科学の分野における栄養の意義と役割について学び、食品成分に含まれる脂質による生体調節機能とその作用機序について学習する。ここでは、学会での発表や論文のまとめ書き方を学ぶ。</p> <p>(安部恵代) 特別研究Ⅱでは、一年次に作成した研究計画に基づき、研究を実際に準備、実行し、データを収集する。さらに、データを解析した結果を、英語論文にまとめて発表する。</p> <p>(久木野憲司) 研究計画に沿って本実験を実施、その結果の整理、データの検証、研究計画の修正、さらなる実験の実施、との一連の研究プロセスを繰り返しつつ、研究を進める。</p> <p>(草野洋介) 健康寿命と関連する要因、延伸のために必要な意識変容・行動変容についてフィールドワークを行い得られた結果をまとめる。</p> <p>(堀田徳子) 栄養教育手法やその効果について介入研究を行う。これまでの関連文献を読んで研究の方向性を決定し、研究計画を練り、倫理委員会申請や対象確保の準備をし、調査に取りかかる。</p> <p>(久野一恵) 研究計画に従って、研究を実施する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	栄養学特別研究Ⅲ	<p>(特別研究の概要) 食・栄養・健康分野の高度な専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1～3年次を通して研究指導を行う。3年次は、データをまとめ学会発表や国際雑誌への論文投稿を行い、学術的知見の情報発信の方法を学ぶ。</p> <p>(安田みどり) 食品成分が有する様々な生体調節機能を明らかにするため、様々な方法により機能性成分の分析や機能性の評価を行う。ここでは、論文のまとめ方を学ぶ。</p> <p>(柳田晃良) 食品科学の分野における栄養の意義と役割について学び、食品成分に含まれる脂質による生体調節機能とその作用機序について学習する。ここでは、学会での発表や論文のまとめ書き方を学ぶ。</p> <p>(安部恵代) これまで、研究を実行し得られたデータをもとに、博士論文を作成する。</p> <p>(久木野憲司) 実験結果をまとめ、国際的学術雑誌に得られた知見を論文として発表するプロセスを学び、また、学会での口頭発表によって知見を発信するプレゼンテーション技術も学ぶ。</p> <p>(草野洋介) 健康寿命と関連する要因、延伸のために必要な意識変容・行動変容を明らかにすることを目的とした論文の執筆法について学び、執筆する。</p> <p>(堀田徳子) 論文作成が完了したら、英文投稿論文作成の準備に取りかかる。アクセプトに向けて、修正を重ね、合わせて博士論文の作成をする。</p> <p>(久野一恵) 行った研究成果を学会発表を行うことで理解を深めるとともに、論文執筆を行う。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人永原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
西九州大学				西九州大学				
健康栄養学部				健康栄養学部				
健康栄養学科	120	-	480	健康栄養学科	120	-	480	
健康福祉学部				健康福祉学部				
		3年次				3年次		
社会福祉学科	80	10	340	社会福祉学科	80	10	340	
スポーツ健康福祉学科	50	-	200	スポーツ健康福祉学科	50	-	200	
リハビリテーション学部				リハビリテーション学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	-	160	理学療法学専攻	40	-	160	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
子ども学部				子ども学部				
		3年次				3年次		
子ども学科	80	10	340	子ども学科	80	10	340	
心理カウンセリング学科	40	-	160	心理カウンセリング学科	40	-	160	
看護学部				看護学部				
看護学科	90	-	360	看護学科	90	-	360	
(計)	540	20	2,200	(計)	540	20	2,200	
西九州大学大学院				西九州大学大学院				
生活支援科学研究科				生活支援科学研究科				
健康栄養学専攻(M)	2	-	4	<u>健康栄養学専攻(M)</u>	2	-	4	専攻名称の変更(届出)
				<u>健康栄養学専攻(D)</u>	2	-	6	課程の変更(認可申請)
地域生活支援学専攻(M)	5	-	10	地域生活支援学専攻(M)	5	-	10	
地域生活支援学専攻(D)	3	-	9	地域生活支援学専攻(D)	3	-	9	
臨床心理学専攻(M)	5	-	10	臨床心理学専攻(M)	5	-	10	
リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	
子ども学専攻(M)	3	-	6	子ども学専攻(M)	3	-	6	
				<u>看護学専攻(M)</u>	5	-	10	専攻の設置(認可申請)
(計)	21		45	(計)	28		61	
西九州大学短期大学部				西九州大学短期大学部				
地域生活支援学科	100	-	200	地域生活支援学科	100	-	200	
幼児保育学科	90	-	180	幼児保育学科	90	-	180	
(計)	190		380	(計)	190		380	